

# エアードライヤー

**重要**

## 交換作業時のご注意

■コントロールバルブが塞がれている機種

コントロールポートが塞がれている機種



■排気バルブからエアが排出されるタイミング

①バージ（乾燥剤の再生）時、排気バルブからエアが排出されます。 →正常です。

②バージ後エアータンク保守の為、アンロード作用をし排気バルブからエアが一時排出されます。 →正常です。

■車両側のコンプレッサーについて

コンプレッサーにアンロードバルブがない車両の場合、給気調整を行うことが出来ないことから、コンプレッサーは給気を止めることなくドライヤーへ常時給気を送り続けています。その為、エアータンク内の圧力が一定圧以上になった時、ドライヤーの排気バルブを開くことでエア圧調整を行う車両があります。

■コントロールポートの有無

コントロールポート	コンプレッサー	排気バルブからエアが排出される時	
	アンロードバルブ	エアータンクが一定圧以上になった時	バージ時（再生時）
なし	なし	エア排出あり	エア排出あり
あり	あり	エア排出なし	エア排出あり

【作業開始前】

■エアークリーナーの詰まりはエンジン内部に負圧を発生させ、結果、オイルミストがエアードライヤーに多く送り込まれる原因となります場合がありますので、良否確認をお願い致します。

■ナイロンチューブを取り外す際は、スパナ、ドライバー（図1）等の工具で代用せず、サイズの合った専用のリムーバーをご使用下さい。誤った方法で作業しますと、キズや曲がり等が付く原因になりますのでご注意下さい。（図1参照）

専用のリムーバーをご使用下さい。

■車両から取り外したエアードライヤーからコネクター等を取り外し、付替え作業をお願い致します。付け替えの際には、シールテープの切れ端、埃、砂等が内部に混入しないようにご注意下さい。混入しますと早期故障の原因になります。

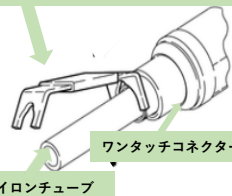


図2)

2山ほど残し巻く。



巻きすぎは切れ端が内部混入

【取付準備】

■シールテープの切れ端を内部に混入させないようご注意下さい。「シールテープの巻き方について」（図2参照）

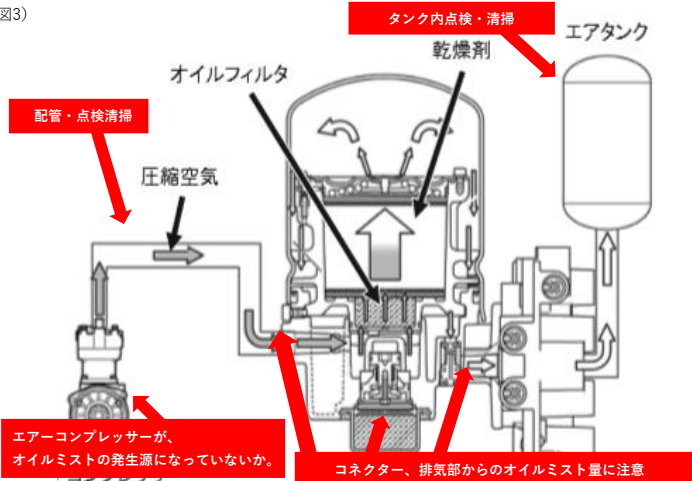
- ①右回り（時計回り）に巻き付けて下さい。
- ②2～3回転程巻き、ネジ山の先端を2山程残した位置まで巻いて下さい。
- ③ネジ山に良くなじませて下さい。

■シールテープの切れ端混入リスク低減の為、代替品として「液体シール剤」をおすすめいたします。

【関連部品のメンテナンス】

■エア配管とナイロンチューブ内の汚れを取り除いて下さい。また、エアコンプレッサーの異常、エンジン本体の異常も考えられますので、総合的なメンテナンスと点検をお願い致します。（図3参照）

図3)



【コア返却】

■取り外したコアは貴重な資源となりますので、丁寧な取り扱いと早期返却にご協力をお願いいたします。

以上